

私たち第一看護科1年生は、初めて介護老人保健施設（「ライフケア鶴賀」・「ライフサポート寧寧」）実習を行いました。

「患者さんのことを理解することや知識の大切さ」、「高齢者は複数の疾患を抱えているということ」、「個別性を踏まえた援助の重要性」や「高齢者の特徴を理解し、残存機能を生かした個別性に応じた援助、看護とは何か」を学びました。また、「患者さんにより良い看護をするには、アセスメントが重要であり、そのアセスメントには患者さんや疾患の理解が必要だと思いました。実習中に勉強するのは間に合わないので事前学習の必要性も学んだという意見もありました。ケアを実践していく上で、「高齢者のできない部分でなく、できる部分を引き出していくことが、自尊心の向上につながることで、患者さんそれぞれの強みや特徴など個別性を考慮したケアを行うことの難しさと重要性」を学び、「実習目標の具体性は、評価基準がはっきりしていれば、計画の方向性やゴールも見えやすく、自分の中での達成感も強いと感じました。具体性を出すには、患者さんをよく診て、個別性を捉えていくこと、生活環境（病床・退院後）に合わせて考えることが必要だと思った」という意見がありました。

